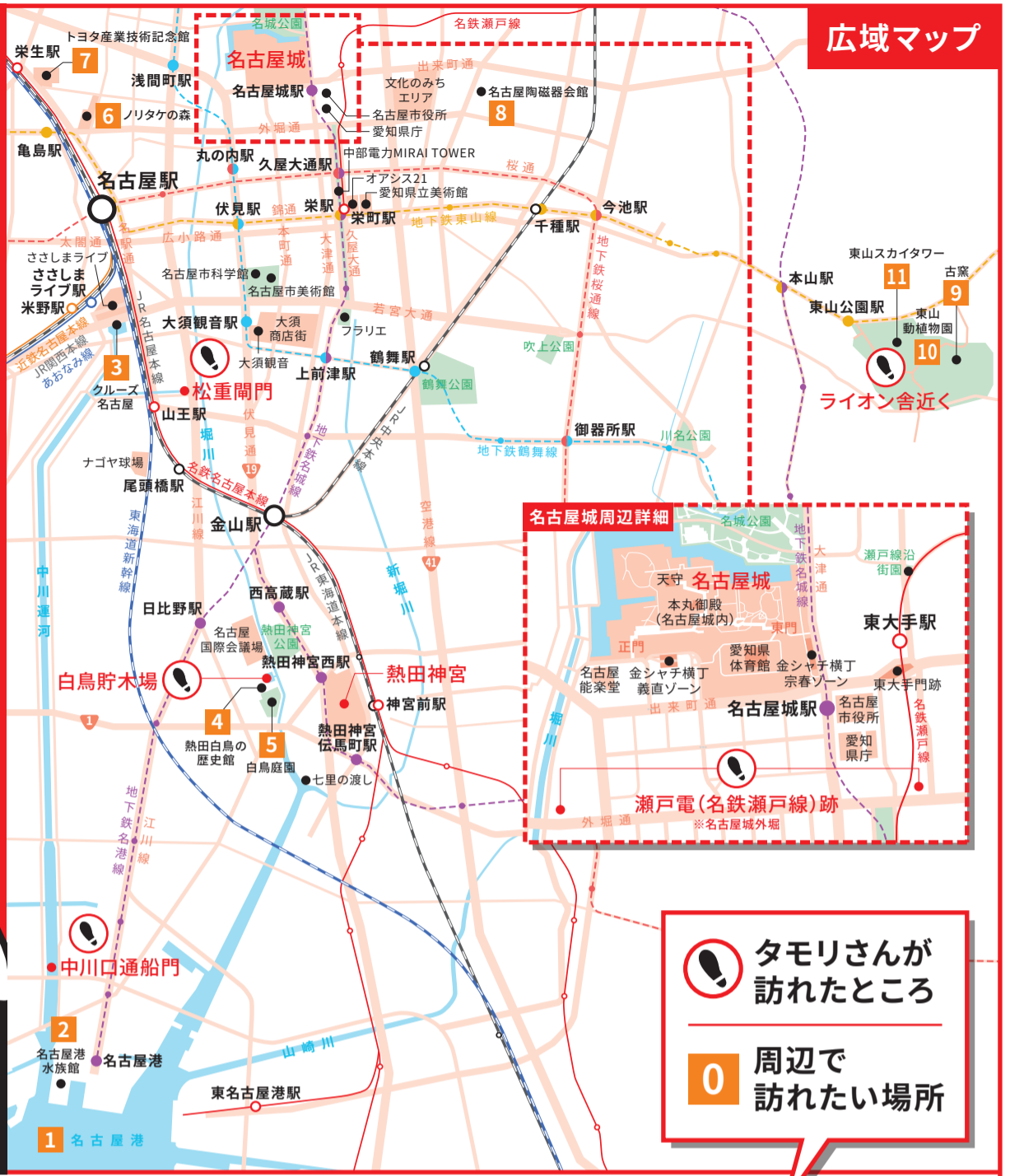


名古屋 ブラリ MAP

ものづくり編

NHKの人気番組「プラタモリ」で
タモリさんと近江アナウンサーが歩いたルート
をブラブラたどってみよう!

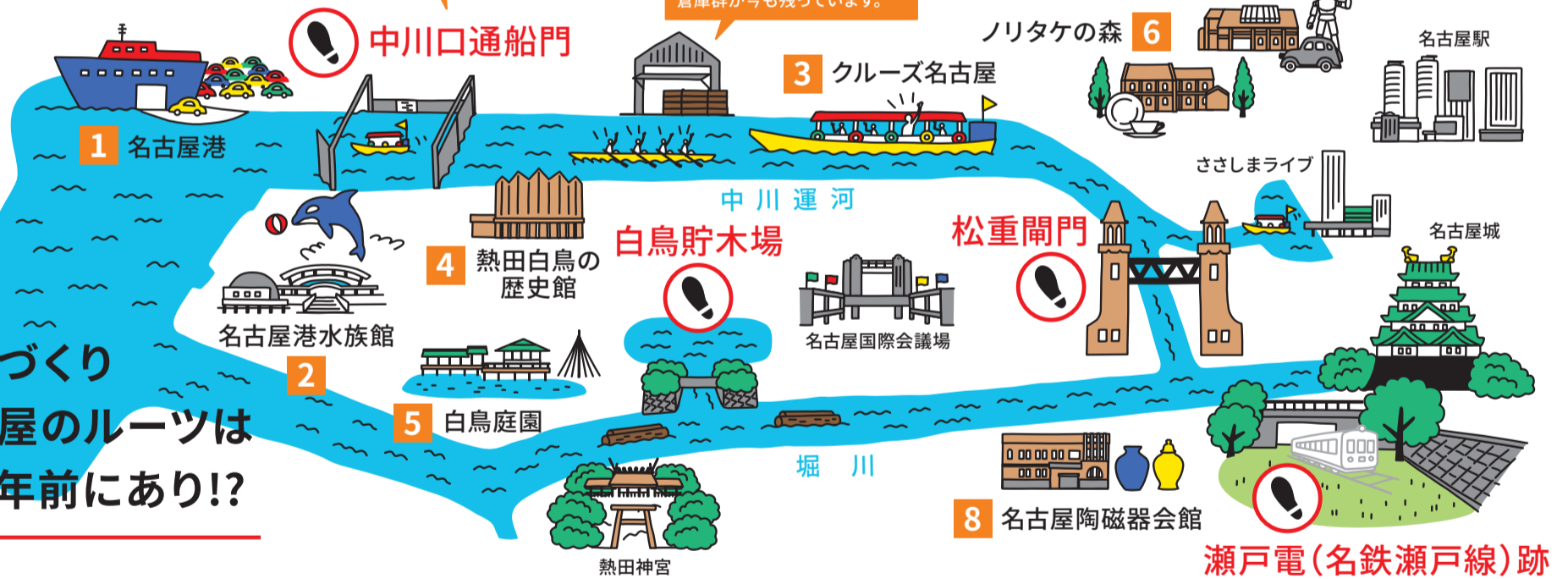


堀川・中川運河

番組の中で、タモリさんも実際に船に乗って
中川口通船門による水位調節を体験!

中川運河沿いには、昔ながらの
倉庫群が今も残っています。

ものづくり
名古屋のルーツは
400年前にあり!?



中川口通船門

水位の違う川や運河を行き来するための施設。輸送能力に限界を迎えていた堀川のバイパスとして、1932(昭和7)年に中川運河が全線開通したことで、渋滞が緩和されました。堀川の渋滞の原因は、輸送量の増加と、海とつながっているため、潮の影響で干潮になると船が通れなくなるこの二つ。そこで、中川運河は堀川側だけでなく、もう一つ、海側にも閘門を作ることで、潮の影響を受けないようにしました。運河の完成により、堀川を上る時間が大幅に短縮され、瀬戸物など堀川を使っていた輸出品も、中川運河と接続することで、取扱量が大きく増加しました。

白鳥貯木場

1610(慶長15)年に福島正則によって開削された堀川は、名古屋城築城の資材を搬入する中心的ルートとして利用され、材料置場・船置場として大池が掘られました。熱田白鳥は木材の一大集散地として江戸時代には尾張藩、明治以降は国が管理し、売り払われた木材は名古屋のまちづくりや産業発展を支えました。なお、白鳥公園内には「白鳥御材木場・御船蔵跡」を示す石碑が設置されています。



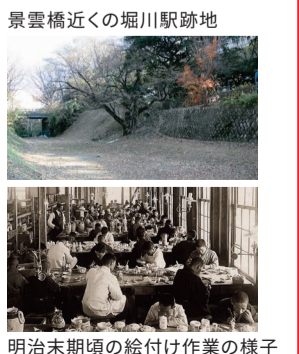
松重閘門

1930(昭和5)年に中川運河と堀川を結ぶ通船路として建設され、1932(昭和7)年に開通しました。この閘門は水位の異なる二つの河川の水位調整の役割を果たしていましたが、1976(昭和51)年にその役割を終えました。1986(昭和61)年には名古屋市市の文化財に、1993(平成5)年には都市景観重要建築物に指定。現在は周辺地域と合わせて公園となっています。



瀬戸電(名鉄瀬戸線)跡 名古屋城外堀 ※お堀の中に許可なく入ることはできません。

1911(明治44)年から1976(昭和51)年まで、名古屋城外堀を鉄道が走っていました。堀の中には、直角に向きを変える「サンチャインカーブ」があり、電車にとっては相当きついカーブでした。瀬戸方面からの旅客の輸送や、瀬戸から運んできた陶磁器を堀川駅の先にある堀川の水運に乗せるための鉄道でした。



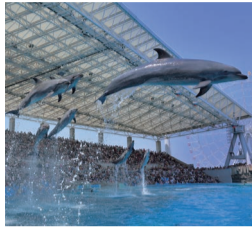
堀川・中川運河のつづき

1 名古屋港

自動車王国日本において、外国車を主とする輸入に対して国産車を主とする輸出の規模はなんと約10倍にのぼります。名古屋港は、この自動車輸出で日本一、世界でもトップクラスを誇り、日本経済を力強く支えています。なお、輸出入自動車の合計でも2016(平成28)年財務省貿易統計によると、台数、金額とも名古屋港が日本一です。

2 名古屋港水族館 住所:港区港町1-3

北館・南館の2館からなり、北館ではシャチ、イルカ、ベルーガなどの鯨類を飼育展示。南館では日本から南極までの5つの水域にすむ生物を紹介。日本最大のメインプールではイルカのパフォーマンスが見られます。



3 クルーズ名古屋

乗船場:[ささしまライブ]~[キャナル・リゾート]
~[ガーデンふ頭]~[金城ふ頭]

水面から名古屋駅のビル群を一望できる「ささしまライブ24地区」、パナマ運河をプチ体験できる「中川口通船門」、開放的な名古屋港などの風景を楽しめます。



4 熱田白鳥の歴史館 住所:熱田区熱田西町1-20

”木材産業発祥の地”とされる熱田白鳥の歴史や、木材の流送などを、写真、絵巻(複製)、映像で観ることができます。また、森林、林業、木材利用などについて学習できる場にもなっています。



5 白鳥庭園 住所:熱田区熱田西町2-5

池泉回遊式庭園で中部地方の地形をモチーフに、築山を「御嶽山」、そこからの流れを「木曾川」、流れの水が注ぎ込む池を「伊勢湾」に見立て、源流から大海までの『水の物語』をテーマにした市内随一の規模を誇る日本庭園。



6 ノリタケの森 住所:西区則武新町3-1-36

緑あふれる敷地内では陶磁器の工場やオールドノリタケを展示するミュージアムの見学が楽しめるほか、絵付け体験もできます。



7 トヨタ産業技術記念館 住所:西区則武新町4-1-35

トヨタグループ発祥の地に残されていた大正時代の工場を貴重な産業遺産として保存・活用し、繊維機械と自動車を中心とする産業技術の変遷を本物の機械の動態展示やオペレーターによる実演で分かりやすく紹介しています。



提供:トヨタ産業技術記念館

8 名古屋陶磁器会館 住所:東区徳川1-10-3

戦前から戦後にかけて名古屋で上絵付け加工され、世界を魅了した、輸出用陶磁器作品の数々を収集し、1階の展示室にて一般公開しています。



コラム1 九代玉屋庄兵衛

住所:犬山市 犬山北古券8
(IMASEN 犬山からくりミュージアム)

名古屋では、木でできたからくり人形が400年前から作られていました。「ブラタモリ」番組内では、九代玉屋庄兵衛さんが登場し、江戸時代のからくり人形の高度な加工技術が明治以降に広い分野の機械へと応用されていったことを紹介していました。



コラム2 オールドノリタケ

明治中期から第二次世界大戦終結までにアメリカを中心に輸出されたノリタケ製品の総称。現在では骨董愛好家のコレクターズ・アイテムになっています。



東山動植物園



春は桜がとってもキレイ!



©Nagoya City
ズーポ

9 古窯

1972(昭和47)年に発掘された鎌倉時代初期の「登り窯」が、植物園内「万葉の散歩道」の一面に展示されています。燃料や製品の出し入れをする「たき口」、燃料のまきを燃やす「燃焼室」などが、丘の斜面を利用して「登る」ように作られています。千種区の東山地区では、県内で最も早い古墳時代後半から鎌倉時代までの古窯が、百基近くも発掘されていて、良質の陶土と燃料のまきの二つの条件を重ね備えた地帯であったのが、理由として考えられています。



10 東山動植物園 住所:千種区東山元町3-70

動物園にはコアラを始め、イケメンで人気のニシゴリラ「シャバーニ」や、おっさんのような声で叫ぶフクロテナガザル「ケイジ」など約450種の動物たちがいます。植物園では自然を生かした地形に約7,000種の植物が楽しめます。



11 東山スカイタワー 住所:千種区田代町瓶杓1-8

海拔80mの丘上に立ち、標高180mに位置する展望室からは、晴れた日には遠く御嶽山、鈴鹿山脈、アルプス連峰などが一望できます。「日本夜景遺産」に認定された夜の景色もおおすすめです。



ライオン舎近く

名古屋市東部の丘陵地帯一帯は古墳時代から室町時代にかけて陶器の一大生産地で、斜面を利用した登り窯で陶器を作っていました。東山動植物園内では鎌倉時代初期の窯のほか、瓦、香炉、壺などが出土しています。

